

保育園見学チェックリスト



チェック項目

○

△

×

?

I. 園の保育方針

1	園の保育方針が、ご家庭の子育て方針に合っているものと感じるか				
2	園の理念や保育面で大事にしていることを見学時に尋ねたとき、わかりやすい言葉できちんと答えもらえるか				
3	ホームページ等で方針が明確に打ち出されており、十分な情報を収集できるか				

II. 保育の質

4	各クラスに配置されている職員の数是十分か（1名の保育士が担当できる子どもの数は、京都市の基準で「0歳児3名、1歳児5名（ただし10月2日以降生まれは4名）、2歳児6名、3歳児15名、4歳児20名、5歳児25名」）				
5	ベテランから中堅、若手まで、幅広い年代の職員がバランスよく配置されている園か				
6	園内の雰囲気から、職員同士の関係性の良さが感じられるか（これは保育の質にも直接影響する）				
7	見学時に見た子どもたちが、いきいきと笑顔で過ごしている様子か				
8	園内全体が清潔で、整頓・掃除が行き届いているか				
9	子どもたちが遊ぶスペース、食べるスペース、寝るスペースがきちんと考えられて構成されているか				
10	保育室内におもちゃや絵本などが十分用意されているか、またそのおもちゃや絵本は老朽化していないか				
11	園庭があり、子どもたちが屋外で遊べる環境が整っているか				
12	園庭がない場合、近隣の公園などに遊びに行き、外遊びの機会が十分に確保されているか				
13	保育士は笑顔で子どもと接し、ともに遊び込んでいるか（またはしっかり子どもを見守っているか）				
14	保育士の子どもたちへの言葉がけはやさしく丁寧なものか				
15	園の行事は、日常保育との連続性をもち、園児の育ちを意識したものになっているか				
16	子どもの発達にかかわる専門家が園内にいて、発達の課題をかかえた子どもに、個別の支援を行える園か				
17	給食・おやつ献立の内容が充実しており、栄養価計算の基準もクリアしているか				

III. 子どもの安全・衛生

18	家具の四隅へのコーナークッション設置やドアの指詰め対策、階段からの転落防止策など安全対策が講じられているか				
19	乳児のお昼寝時の呼吸チェックをしっかりと行っているか（SIDSや窒息対策）				
20	園外に散歩に行く場合、「園外活動マニュアル」等に基づいた経路の設定や安全確保の計画があるか				
21	幼児（3歳児以上、特に5歳児）に交通安全意識を伝える取り組みが行われているか（園外活動の安全確保+小学校進学時の事故予防）				
22	夏場の水遊びやプール遊びがある場合、マニュアルがきちんとあり、監視役と指導役の保育士が別々についているか				
23	食物アレルギーがある子どもに対し、誤食を防ぐための予防策を設けているか				
24	子どもの怪我や体調不良への対応、感染症予防活動を園全体でしっかり行っているか（看護師がいればよいというものではない）				
25	子どもに熱が出た場合など、お迎えまでしっかりした体制で見守れるか（どこでどうやって安静に過ごすか。ケアをどうするか）				

保育園見学チェックリスト



チェック項目		○	△	×	?
26	保育中に通院が必要な怪我が生じた場合、保護者への連絡や病院への通院などにきちんと対応できるか				
27	感染症の流行期中だけでなく流行期前から、園内の感染拡大を防止する対策をとっているか				
28	不審者侵入を予防したり、侵入時の職員の対応がマニュアルになっており、訓練も行われているか				
29	災害（地震・台風・水害・土砂災害など）に備えたマニュアルがあり、毎月の防災訓練を励行しているか				
30	園バスがある場合、運行計画（安全な経路の選択、運転手の管理、車両整備、園児の昇降確認等）が実践されているか				

IV. 保護者支援

31	日々の育児相談、発達相談をいつでも受けられる体制があるか				
32	日曜日と祝日（年末年始含む）以外はすべて開所しているか（お盆期間や3月末などに園都合で休園したり、家庭保育のお願いをしていないか）				
33	慣らし保育はどのくらいの期間が必要か、その理由も含めて園がしっかり説明できるか				
34	使用済みのオムツは家庭への持ち帰りではなく、園で処理しているか				
35	オムツを園で準備するサービス（有料）がオプションとしてあるか				
36	布団やシーツの持ち帰りがあり、家庭での洗濯の手間がかからないか				
37	毎朝の登園時の持ち物が多すぎたり、保護者の準備に負担が大きすぎないか				
38	家庭からお弁当持参の日がなく、毎日給食がしっかり提供されるか				
39	行事等で保護者の役割・負担がある場合、仕事と育児とを両立できるレベルか				
40	行事は、保護者の参加しやすい土曜日などに開催するよう配慮がなされているか				
41	園と保護者とのコミュニケーション手段として、スマホなどで扱えるシステム/アプリを導入しているか（冊子の連絡帳より簡便でスムーズ）				
42	保護者に対し、日々の保育、給食、行事などの情報をタイムリーに発信しているか（お迎えの際の担任保育士とのやりとりに加えて）				
43	京都市が徴収する保育料以外の、園が徴収する保護者負担金が高すぎないか				
44	お迎えの時間に柔軟に対応してもらえるか（仕事の都合や交通情報などで遅れることも当然あるので、そこで遅延料金を徴収されないか）				
45	子どもの発熱の場合、37.5℃を超えたらすぐにお迎えをお願いするのではなく、登園時の視診触診の結果や保護者からの伝達内容、子どもの普段の様子との違いなどから総合的に判断できるか（発熱がなくても普段と様子が違う場合はお迎えをお願いすることがある。他方で、37.5℃を超えても、それが一時的なものである可能性があれば、様子を見つつ園で保育を継続することもある）				
46	休日保育や19時以降の長時間保育、夜間保育にも対応しているか				
47	保護者同士の交流を希望する方が、交流を持てるような機会があるか（日々の送り迎えの際の交流機会・場所、行事などの機会、保護者会に限らず任意での保護者同士の繋がり、子育て支援クラブの存在など）				
48	保育園の卒園後も、園とのつながりを保ち、継続的なサポートを受けられるか（学童クラブの併設等による小学生以降の支援の有無）				

V. 最後には（これがとても重要）

49	親の直感として、園に好感を持てるかどうか、この園に通わせたいと感じるかどうか				
50	自分の子どもがこの園に通って、笑顔で過ごし、成長する姿が想像できるか				